



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

第9回通常総会 報告

2013年度事業計画案、活動予算案 および
新役員案が承認されました。



よび情報提供

ホームページやメールによる学びの支援と活動紹介。

予算:112,000円

(4) 教育や福祉についての相談、情報提供および障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会報作成(200部)、教育や福祉についての相談、子育て・親育ち勉強会や茶話会の実施。 予算:40,000円

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動

引きこもる子を持つ親の会との話し合い、障がいのある人の自立に関する相談。 予算:40,000円

(6) 自然環境の中での学び、自然環境保全の啓発活動
自然観察、畑作り、川遊び等、ボランティアなどの協力によるイベント開催や環境調査。 予算:5,000円

■ 役員を選任(敬称略)

新たに中島直弥が理事に選任されました。

また、以下の理事9名と監事1名については再任が承認されました。以下のメンバーが引き続き会の運営にあたります。

理事:金谷真奈美、栗原真佐美、白井佐智子、手塚郁夫、西尾敬子、沼尾忠宏、村上幸子、吉成啓子、吉成勇一 監事:山本佳子

任期は本年7月1日から2015年6月30日までとなります。なお、7月1日の理事会において手塚郁夫が理事長に再任されました。以上、ご報告いたします。(手塚)

5月11日(土)午後2時から、日光市民活動支援センターにて、第9回通常総会を開きました。出席正会員38名(うち表決委任者22名)により、会の成立を確認。昨年度事業、決算、本年度の事業計画および予算が承認され、会議を終了しました。

今年度は「子どもの居場所」の日光市委託への転換という大きな変化がありました。また、福祉に関連した情報提供事業や相談事業など、新たな活動への取り組みも始まっています。今後も引き続き、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

■ 事業計画

(1) 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営

ゆったりと過ごせる時間と空間を確保し、子どもたちの意見や要求をもとに活動する。雑談会、音楽鑑賞、ミーティングなどによりコミュニケーションをはかる。個別学習援助を充実させる。

子どもの居場所 月～金曜日:12:30～16:30

学びサポートひろば 毎週金曜日:17:00～21:00

予算:2,645,400円

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発

新たな学習プログラムの調査、研究開発など、従事者が話し合いながら進める。地域、学校とも連携し、教材開発を行う。科学をテーマにした一般市民の話し合い、「科学と人間」を考える市民参加・討論型カフェをめざす。

予算:75,000円

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

目次

第9回 通常総会報告	1
川むしたんけん隊	2
下野新聞・地論26	2
障害者相談・家族支援研修	3
活動日誌	3
こんな本はいかが?	22 4

居場所のひとこま

4月のあわただしい引っ越しから3ヶ月が過ぎました。ベランダに作った鉢植えのミニ菜園。毎日の水やりなど子どもたちのこまめな手入れの結果、ナスやミニトマトがおいしそうなお実をつけてくれました。次回の「つくって食べよう!」は、ここでできた野菜を使った一品を...



川むしたんけん隊 居場所近くの田川(日光市和泉)で実施

移転した「居場所」の近くでやってみたいと塚崎さん(今市の水を守る市民の会)に相談したところ、「いい場所をみつけたよ」と連絡があり、6月15日(土)午後1時と日程も決まりました。梅雨の真っ最中、雨が今にも降り出しそうな曇り空の中、集まってくれた14人のみなさんと川に入り、川底にいる虫を採取しました。その後、「子どもの居場所」に移動し、川虫を観察しました。(T)



気温28度、水温16度
川幅5m、水面幅4m、水深~15cm
たくさんみつかった虫たち
マダラカゲロウ、コカゲロウの仲間、
ヒゲナガガワトビケラ、ヒル、
プラナリア(ウズムシ)、
トンボのヤゴ(ヤンマ科、カワトンボ)
少なかったけど、
カワニナ、モンカゲロウ、ヒラタカゲロウなど



不登校の子と親をサポート 大人が支える「居場所」

下野新聞・地論26(2013年7月3日 掲載)

私たちのNPOは「子どもたちが安心して過ごせる居場所」、「子育てに悩みをもつ親の交流の場」を作りたいと2004年にできた親の会が母体です。「東京シューレ」や、高根沢町教委運営の子どもの居場所「ひよこの家」などの見学会で活動のイメージをふくらませました。会の名前を決めようと集まったら「なんとなく」という言葉が浮かんできました。辞書には「とりたててなんと言うこともなく」とあります。特に悪い意味ではないけれど、授業を「なんとなく」受けていたり、教室に「なんとなく」座っていたりというのは、あまりよい状態とは見られません。

この名前は学校に歓迎されないだろうと、その頃まだ学校の教員をやっていた私は考え込みました。物事を始めるときには目的を明確にし、それに到達するための手順を決め、目標に向かって活動するのが効率的だという考え方が学校にも広まっていた。

ブンガク的には、なんとなく旅行に出かけたり、ゲームをやったり、数学の本を読んだり、もしかすると、なんとなく人生を送るといっても、それほどやましいことではないのだけれど、NPOが「なんとなく」では収まりがよくないとも思いました。あれこれ悩みながらのNPO設立準備でした。

さまざまな理由で不登校となった子どもにとって、「学校に行かねばならない」ということは大きな圧力です。不登校という外面の現象にこだわることは、その子の存在そのものを否定することにつながりかねません。登校を強制されず、ゆっくり過ごせる場所で自分を見つめ直し、ふたたび学校への一歩を踏み出す子どももいるでしょう。「学校へ行かない」という道を選んだ子どもには、学ぶ権利を保障するために、その子に合った学びのプログラムが必要です。将来の進路を共に探すことになるかもしれません。地域の大人が支える「居場所」が必要です。準備会での話し合いを元に市教委に要望書を提出しました。「報徳今市振興会館」の使用許可、補助金支出などが決まり、「子どもの居場所」を始めることができました。それから10年目、市委託事業となった「居場所」を受託し、自然に囲まれた住宅で活動を続けています。居場所の運営と並行し、随時の不登校相談、不登校をテーマとした講演会などを開いてきました。近年増加した相談内容をふまえ、発達障がいを持つ子の中学卒業後の進路を考える勉強会、「そこが知りたい・聞きたい、うちの子の進路」を8月3日に開きます。詳細は、ホームページをご覧ください。

青空に新緑の映える日曜日、市民活動支援センターのロビーで会の名前を考えていたとき、子どもたちが発した「なんとなく」は、過酷な競争社会への疑問符だったのではないかと思います。五文字のひらがなは、魔法の呪文のように、このNPOのふるまいやかんがえを、見えない場所で支えているのかもしれない。私たちは「なんとなくのひろば」という名前をとっても気に入っています。(手塚)

☆ 活動日誌

- 4月18日(木) 通信「なんとなくのひろば」第31号発行
 4月27日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 4月28日(日) ベリー会10周年記念講演会
 5月11日(土) 理事会(第51回)、第9回 通常総会
 5月13日(月) 茶話会(第39回)
 5月24日(金) 生徒指導担当者連絡会議(市教委)参加
 5月26日(日) ベリー会:月例会
 5月31日(金) 県立宇都宮商業定時制見学会(学び)
 6月10日(月) 茶話会(第40回)
 6月15日(土) 川むしたんけん隊(サイエンス・カフェ)
 6月19日(水) 「居場所」取材(日光市広報)
 6月19日(水) 栃木県立今市特別支援学校、学校見学会
 6月22日(土) 経済同友会助成金贈呈式(宇都宮大)
 6月22日(土) ワカモノフェスタ実行委員会
 6月24・25日 栃木県相談支援
 従事者専門コース別研修
 障害児相談・家族支援
 6月26日(水) つくって食べよう
(ゼリー)
 6月30日(日) ベリー会:月例会
 7月1日(月) 第52回 理事会



久しぶりの「つくって食べよう！」
 缶詰のフルーツ(みかん、もも)を溶かしたゼラチンの中に入れ、味付けにサイダーをくわえ、かためて炭酸ゼリーにしました。

ん? そこが知りたい、聞きたい、うちの子の進路

8/3

不登校・発達障がいがある子の、義務教育終了後の進路を考える勉強会です。



日時: 2013年8月3日(土)
 午後2時～4時
 場所: 大沢公民館・会議室
 (日光市大沢地区センター)
 定員: 50名(先着順)
 参加費はありません。
 主催: NPO法人 なんとなくのにな
 共催: 日光市
 後援: 日光市教育委員会

クラーク記念国際高等学校
 第一学院高等学校
 栃木県立学悠館高等学校
 日々輝学園高等学校

小中学校では発達障がいを持つ子への手厚いサポートが行われています。いっぽう、卒業後の進路先となる高等学校ではどんな援助があるのだろうか、受験を勧められた高校はどこなのだろうか、という疑問には詳しくわからない、誰も教えてくれないという現状があります。そこで、「高校での発達障がいを持つ子の援助」をテーマとした勉強会を企画いたしました。集まった保護者、学校関係者向けに、各高等学校の学校紹介や入学後のサポート体制について10～15分程度でお話いただき、その後、参加者からの質問を受け付ける討論形式の話し合いを行います。どうぞお気軽にご参加下さい。

この事業は(株)花王 ハートポケット倶楽部からの助成金を使用しています。
 参加申し込みは電話、FAX、メールで受け付けています。

子育て・親育ちの茶話会

場所: 子どもの居場所(日光市平ヶ崎)
 日時: 毎月第2月曜日(午前10時～12時)
 参加費: 300円(お茶代)

次回の日程はお問い合わせ下さい。
 同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いたいよう。「一人で悩まず、みんなであらう」を合い言葉に。(090-3227-7079)

「障害者相談・家族支援」の研修を受講して (6月24・25日)

佐藤俊夫先生(とちぎりハビリテーションセンター)
 講義「発達障がいの感覚の過敏さ・鈍感さについて」を聴講した感想です。(くわはら)

視覚では物をきちんと並べる。ドアを必ず閉める。聴覚では、何かの音を怖がる。両手で耳をふさぐなど過敏さや鈍感さがある。うちの発達くんも、乳児期は帽子を嫌がり、幼児期学童期には「熱い」を連発して靴下も上履きも嫌がった。何でも手にした物を鼻に近づけ匂いをかぐ・・・小学高学年になると徐々に気にならなくなったのだが、中学校への入学が間近になった頃には、カレーやシチューを箸で食べるようになった。フォークやスプーンが皿に触れる音が堪えられないのだという。それほど重大な事とは思わなかった私だが、言語聴覚士をしている兄から「プラスチックのスプーン・フォークにしてあげれば」と助言をされた。

発達障がいがある子には、感覚のアンバランスさがあり、過敏さが強いと情緒が不安定になりやすい。こういった行動は、何かが上手くいっていないサイン。佐藤俊夫先生は、「ほどほどに、あきらめることが大切」だという。無理になくしても、ストレスが加わると再発する。良いところが増えると(基礎がしっかりすれば)過敏さは軽減する・・・

さて、うちの発達くん、お受験が待ち受けているけど・・・

最近、しきりに「臭い」を連発する。温められた食べ物、給食がダメらしい。どうにか、ストレスを上手く発散させられるかな? 皆さんは大丈夫ですか?



こんな本はいかが？ その 22 不登校になった子の物語と気持ちに気づく本

☆「西の魔女が死んだ」 梨木 香歩 作 小学館 (1996年)
☆ DVD版「西の魔女が死んだ」 「西の魔女が死んだ」製作委員会 (2008年)

ある夏、中学校へ行けなくなったまいは、“西の魔女”と呼ばれるまいのおばあちゃんの家で過ごすことになった。まいは、“魔女修行”をする中で、毎日の生活そのものの大事さを学んでゆく。

本とDVDでは少し内容が違っているが、本でも読み、DVDでも鑑賞することをお勧めしたい。子どもと親とおばあちゃんと…それぞれの気持ちがいじみじみと伝わってくる。子どもへの祖母の関わり方は、時に難しいが、親にはできない楽しい要素がたくさんあると思う。

☆「感じない子ども ころを扱えない大人」
袈岩(ほろいわ)奈々 著 集英社新書 (2001年)

子どもも大人も「感情」をうまく扱えなくなっている。特に、怒り、落ち込み、不安といったネガティブな気持ちに対応ができない。この本は、子どもたちの発する気持ちのSOSにどう答えるか、大人の感情トラブルをどう解決するかなど、実践的なこころの扱い方を教えてくれる。

目次から・・・

- ・もやもや気分の正体をつかめない
- ・“ネガティブな気持ち”を扱う
- ・感情をあとまわしにしてきた大人たち
- ・困ったコミュニケーションがおきる仕組み
- ・大人が“自分の気持ち”に気づくための練習問題
- ・大人が子どもと話すための練習問題 など (白井)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

会員について

正会員：47
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。
年会費(一口)
正会員 3,000円



賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円
私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく申し上げます。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なんとなくのへや

車を運転しながらラジオの政見放送をぼんやりと聞いていた。ある候補者の「私の目標は『ゆとり教育』の全廃です。生徒全員への学力テストを行い、結果をすべて公表して効率の良い教育を目指します」という意見表明にびっくりした。あんまり驚いたので、その候補者が他に何を言ったのか、なんという名前だったのか覚えていない■「教育の効率」とは何だろう。工業製品を作るように、費用対効果で評価できるのだろうか。教育の費用は人件費や設備費を足し合わせれば算出できそう。では、効果はどうなんだろう。ノーベル賞受賞者数や特許申請数が目標だという意見もあるだろうが、すぐに結果がでるわけではない。だから「全員参加テストの点数」で評価しようとする■けれど「教育の効果を測定するテスト」とはそんなに信用できるものなのか。試験問題は、どこかで誰かが「これぞ学力」と決めて作ったものだ。その学力観の信頼性、テストの妥当性を確かめなければならないのだけれど、価値観や職業観の将来にわたる変化を考慮しつつ権威ある教育学者が問題を評価したという話は聞いたことがない。「学校の効率」をテストの平均点と比較しようとするのは、そもそも無理な試みなのだ■全学校で試験を行えば、採点や統計処理作業は膨大となり、業者任せである。顔の見えない業者が決めたものさしで、学校が序列化されるという変なことが起こる。「平均点」ばかりに目が行くが、じつは得点分布のほうが子どもたちの様子を反映している場合もある。一見わかりやすそうなメッセージで現場が右往左往させられるトップダウンの改革は危うい。地域の事情に合わせ、学校ごとに工夫されたテストで、子どもに密着したきめ細かな指導をめざすのが現実的だと思う。(T)